

岡山県感染症週報 2017年 第20週 (5月15日～5月21日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』を解除しました。(5月25日)

◆2017年 第20週(5/15～5/21)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第18週 4類感染症 レジオネラ症 1名(70代 男)
5類感染症 梅毒 1名(20代 女)
- 第19週 2類感染症 結核 1名(80代 男)
5類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名(70代 男)
侵襲性肺炎球菌感染症 1名(40代 男)
梅毒 2名(20代 女 1名、40代 女 1名)
- 第20週 2類感染症 結核 3名(乳児 男 1名、20代 男 1名、80代 女 1名)
3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名(O157:70代 女)
5類感染症 梅毒 5名(20代 男 1名・女 1名、30代 男 1名、40代 男 2名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

- インフルエンザは、県全体で63名(定点あたり0.49→0.75人)の報告があり、前週より増加しました。
- 流行性角結膜炎は、県全体で17名(定点あたり1.75→1.42人)の報告があり、前週より減少しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で394名(定点あたり6.98→7.30人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第21週 速報】

- 結核の集団感染がありました。2016年10月に岡山市で結核患者の発生があり、患者調査及び接触者健診を実施しました。その結果、新たに発病者1名、感染者14名が確認され、結核集団感染と判明しました。

(5月24日)

- 岡山市内の幼稚園1施設でインフルエンザによるとみられる学級閉鎖がありました。(5月24日)

- 岡山市内の幼稚園1施設で感染性胃腸炎による休園がありました。(5月24日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で63名(定点あたり0.49→0.75人)の報告があり、前週より増加しました。岡山県では、2週連続して定点あたり報告数が1人を下まわったため、5月25日に「インフルエンザ注意報」を解除しました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2016/2017年シーズン インフルエンザ情報『インフルエンザ注意報』は解除されました](#)』をご覧ください。
2. **流行性角結膜炎**は、県全体で17名(定点あたり1.75→1.42人)の報告があり、前週より減少しました。患者数は減少したものの、過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、倉敷市(2.50人)、岡山市(1.40人)で、患者が報告されています。この感染症は、アデノウイルスによる眼の感染症で、8～14日の潜伏期間の後、まぶたの浮腫、結膜の充血、眼脂(目やに)、流涙、眼痛などの症状を呈します。有効な薬剤はなく、対症療法による治療が行なわれます。このウイルスは、感染力が強く、人と接触する機会の多い家庭や職場、病院などで流行します。感染した際には、眼を触らないよう気を付け、触ったら石鹸と流水でよく手を洗う、タオルや洗面器などの共用は避ける、家庭内での入浴は最後にするなど、感染予防に努めましょう。
3. **感染性胃腸炎**は、県全体で394名(定点あたり6.98→7.30人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、岡山市(10.36人)、倉敷市(7.64人)、真庭地域(7.50人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2016/2017年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ：大幅な増加 ：増加 ：ほぼ増減なし ：大幅な減少 ：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★★：少し ★★★★★：やや多い ★★★★★★：多い ★★★★★★★：非常に多い

6 / 1 ~ 6 / 7 は『H I V検査普及週間』です

— もんげ〜大事なエイズ検査を受けよう! —

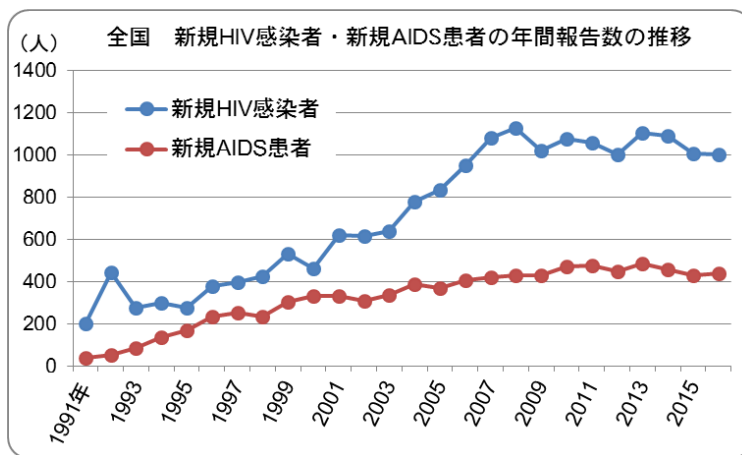
岡山県は、『受けやすい検査』『戦略的な普及啓発』『関係者の連携強化』を3本柱に、全県を挙げて、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染防止と「いきなりエイズ[※]」防止に取り組む、「おかやまエイズ感染防止作戦」を実施しています。その作戦の重点実施期間として「HIV検査普及週間（6/1～6/7）」には、県内の保健所・支所において、即日検査や夜間・休日検査の追加実施を行います。

※「いきなりエイズ」とは、AIDS（後天性免疫不全症候群）発症によって初めてHIVに感染したことが判明することです。

HIV感染後AIDS発症まで、通常数年程度の期間を要するとされていますが、近年発症の早い症例もみられています。

1. 全国の新規 HIV 感染者と新規 AIDS 患者

2016年の国内における新規HIV感染者及び新規AIDS患者（いきなりエイズ）報告数は1,440件（速報値）であり、近年は横ばいで推移しています。特に、新規AIDS患者（いきなりエイズ）報告数は、全新規報告数の約3割のままと、減少がみられないことからHIV検査が未だ十分に行き届いていないことが示唆されています。

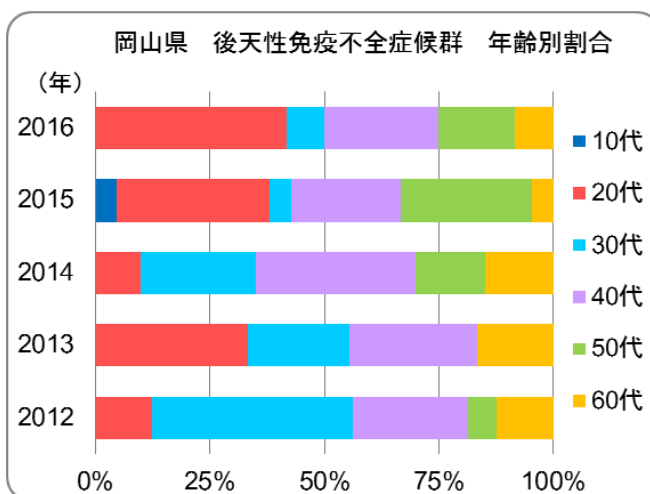
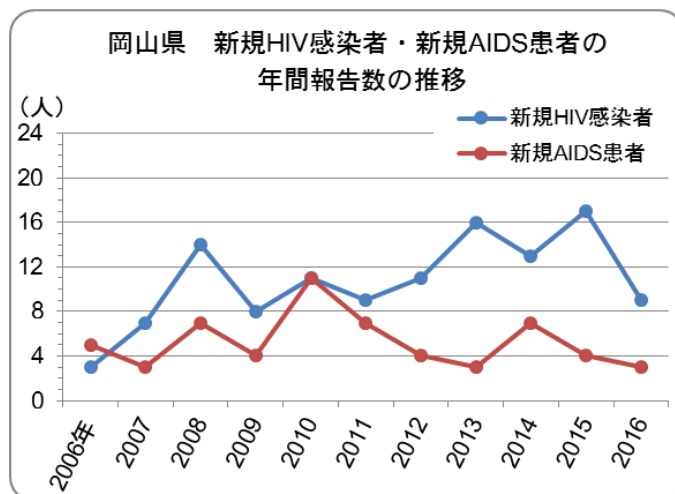


新規 HIV 感染者 ……HIV に感染しているものの、受診時に AIDS を疑う症状がなかったもの。

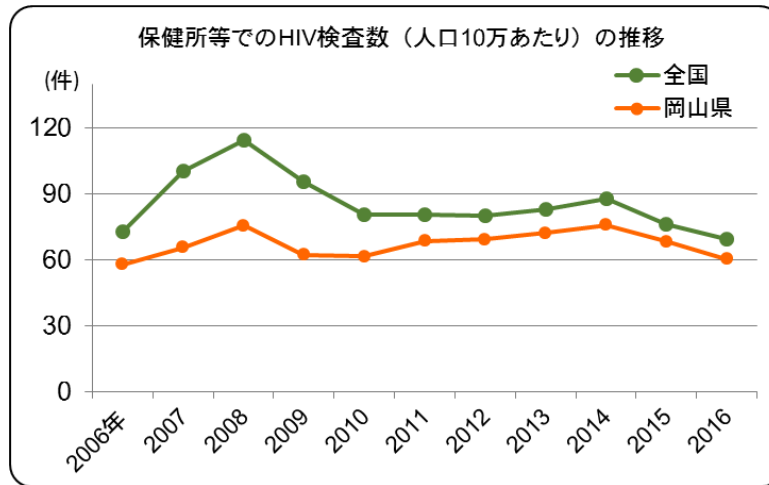
新規 AIDS 患者（いきなりエイズ） …… 受診時、すでに AIDS を発症しており、AIDS 患者として報告されたもの（既に HIV 感染者と報告され、後に AIDS を発症した症例は含まれません。）

2. 岡山県の新規 HIV 感染者と新規 AIDS 患者

2016年の岡山県における新規HIV感染者及び新規AIDS患者（いきなりエイズ）報告数は12件であり、性別はすべて男性でした。年齢別割合をみると、20～60代で発生が報告されており、特に20代の割合が高くなっています。全新規報告数は減少したものの、新規AIDS患者（いきなりエイズ）報告数は、横ばいとなっています。岡山県内で自発的にHIV検査を受けた人の数は、2014年から減少傾向にあり、全国と比較しても少ない状況が続いています。



後天性免疫不全症候群：新規 HIV 感染者と新規 AIDS 患者の合計



3. HIV 検査について

AIDS は、HIV に感染してから発症まで数年程度と、ある一定期間自覚症状がない時期が続くため、感染していることに気づきにくく、知らないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。また、HIV 治療は急速に進歩しており、早期に感染を知り発症する前に適切な治療を開始できれば、定期的に通院しながら今までとほぼ同じ生活を送ることが可能です。HIV に感染しているかどうかは、HIV 検査を受けないとわかりません。早期発見・早期治療が AIDS 発症防止や感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律 1,000 円）などでの HIV 検査を積極的に利用しましょう。

HIV 検査普及週間（6 月 1 日～6 月 7 日）では、 岡山県内の保健所・支所で、 定例日以外や夜間等に検査を実施しています。

- * 検査は無料・匿名で受けることができます。
- * 通常検査では 1 週間後、迅速検査では 1 時間後に結果をお知らせしています。
- * 岡山県の保健所（岡山市・倉敷市を除く）では、梅毒・性器クラミジア・B 型肝炎・C 型肝炎の検査も同時に受けることができます。
- * 検査には、感染機会のあった日から、3 ヶ月経過していることが必要です。
- * 事前に電話で予約が必要です。（予約不要の日時もあります。）

○県内 11 カ所の保健所・支所における HIV 検査普及週間関連検査の日時、予約方法などはこちらから

[【 平成 29 年度保健所における HIV 検査普及週間関連検査等実施日時 】](#)

県内 10 カ所のエイズ治療拠点病院でもエイズ検査が受けられます。

○エイズ治療拠点病院における検査日時はこちらから

[【 平成 29 年度 エイズ治療拠点病院における HIV\(エイズ\)検査実施日時 】](#)

- * いずれの拠点病院でも一律 1,000 円で受けられます（要予約）。
- * 検査は匿名では受けられませんが、結果は検査を受けた日（約 1～2 時間後）にお知らせしています。
- * 検査には、感染の機会のあったと思われる日から、8 週間以上経過していることが必要です。

インフルエンザ週報 2017年 第20週 (5月15日～5月21日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』を解除しました。(5月25日)

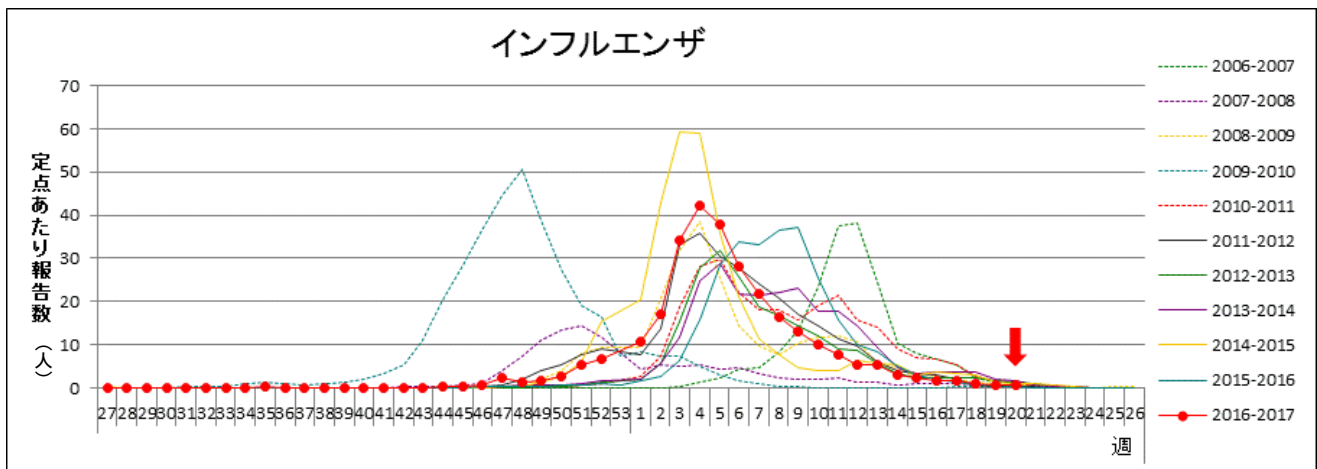
【お知らせ】 2016/17年シーズンのインフルエンザ情報は、今週(第20週)をもって終了いたします。
2017/18年シーズンは、2017年11月頃からの掲載を予定しています。

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で63名(定点あたり0.75人)の報告がありました(84定点医療機関報告)。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第21週 速報】

- 岡山市内の幼稚園1施設でインフルエンザによるとみられる学級閉鎖がありました。(5月24日)



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で63名(定点あたり0.49 → 0.75人)の報告があり、前週より増加しました。

岡山県では、県全体の定点あたり報告数が第19週(0.49人)、第20週(0.75人)と2週連続して1人を下まわったため、2016年12月1日に発令された「インフルエンザ注意報」を、5月25日をもって解除しました。

地域別では、ほとんどの地域で患者の減少がみられましたが、備前地域、備北地域及び真庭地域では、患者が増加しています。特に備前地域(1.27 → 2.87人)では、前週より大きく増加しました。

注意報は解除になり、インフルエンザの流行は終息したと思われませんが、患者が再び増加している地域もありますので、ひきつづき手洗いなど感染予防を心がけましょう。

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

1. 地域別発生状況

前週からの推移(単位:人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	63	▲	備 中	患者数	2	▶
	定点あたり	0.75			定点あたり	0.17	
岡山市	患者数	8	▶	備 北	患者数	3	▶
	定点あたり	0.36			定点あたり	0.50	
倉敷市	患者数	5	▶	真 庭	患者数	1	▶
	定点あたり	0.31			定点あたり	0.33	
備 前	患者数	43	▲	美 作	患者数	1	▼
	定点あたり	2.87			定点あたり	0.10	

【記号の説明】 前週からの推移 ▲: 大幅な増加 ▶: 増加 ➡: ほぼ増減なし ▼: 大幅な減少 ↓: 減少
大幅: 前週比100%以上の増減 増加・減少: 前週比10~100%未満の増減

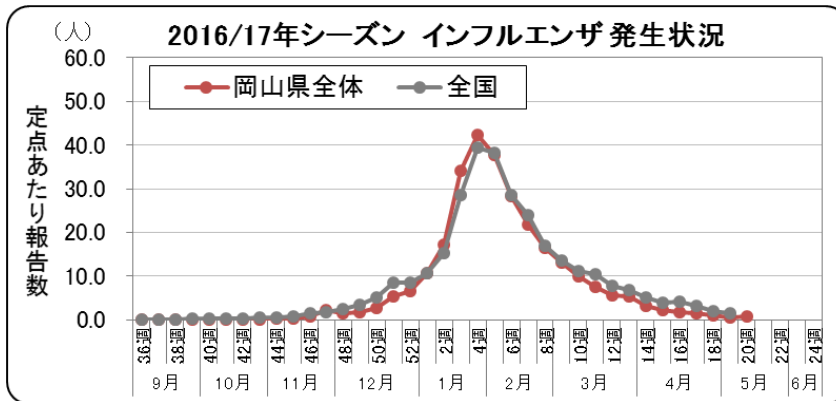
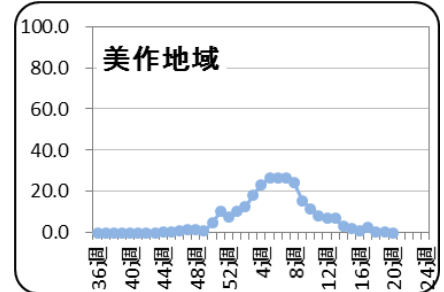
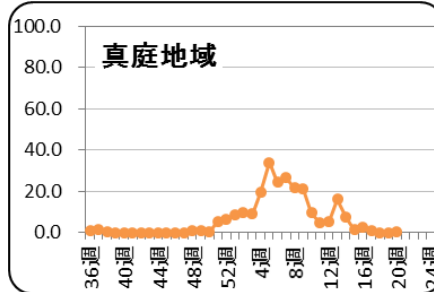
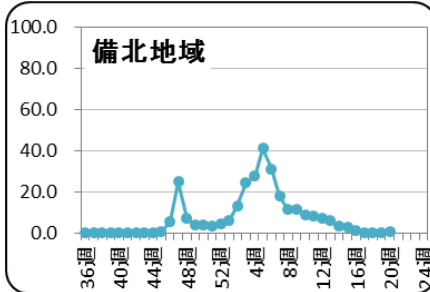
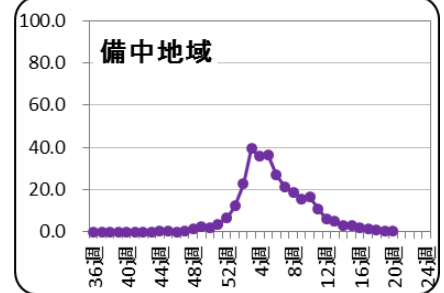
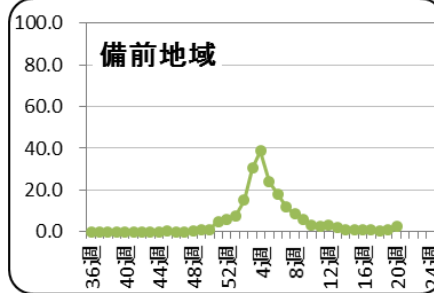
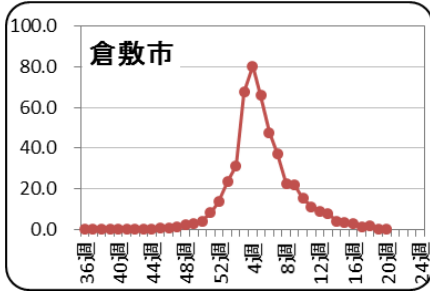
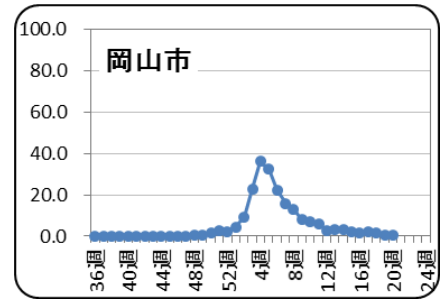
インフルエンザ感染症マップ



＜インフルエンザ発生レベル 基準＞

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満

レベル1	報告なし
基準値	基準値
0 < 10 未満	0

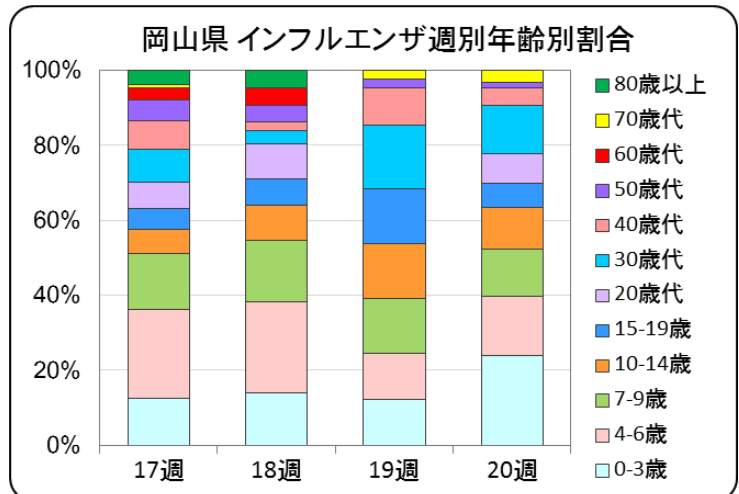
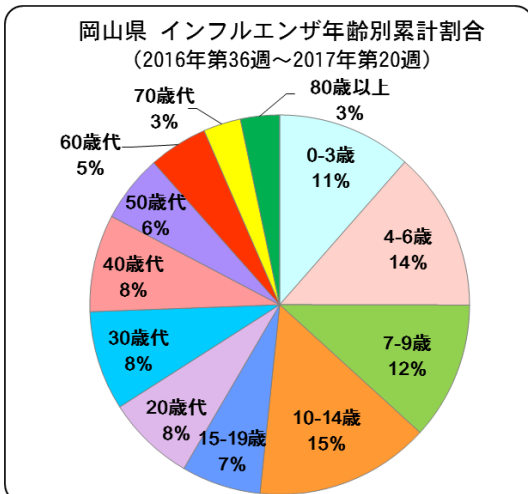


全国集計第19週(5/8～5/14)速報値によると、全国の定点あたり報告数は1.37人となり、前週(2.03人)より減少しました。都道府県別では、沖縄県(7.98人)、新潟県(4.32人)、山形県(3.31人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、5県で前週よりも増加がみられました。

[インフルエンザの発生状況について](#)
(厚生労働省)

2. 年齢別発生状況

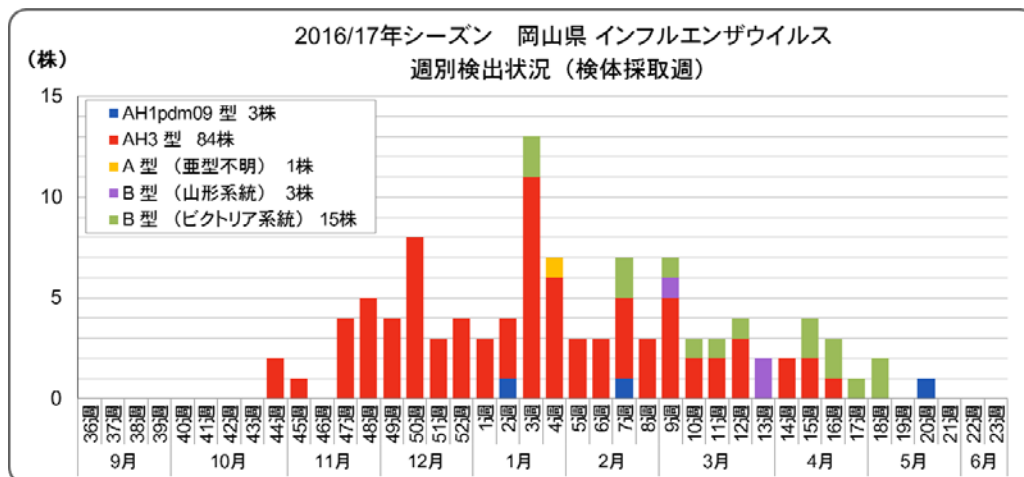
今シーズンの年齢別累計割合は、10-14歳 15%、4-6歳 14%、7-9歳 12%の順で高くなっています。週別年齢別割合をみると、0-3歳の乳幼児の割合が前週より高くなっています。



3. インフルエンザウイルス検出状況

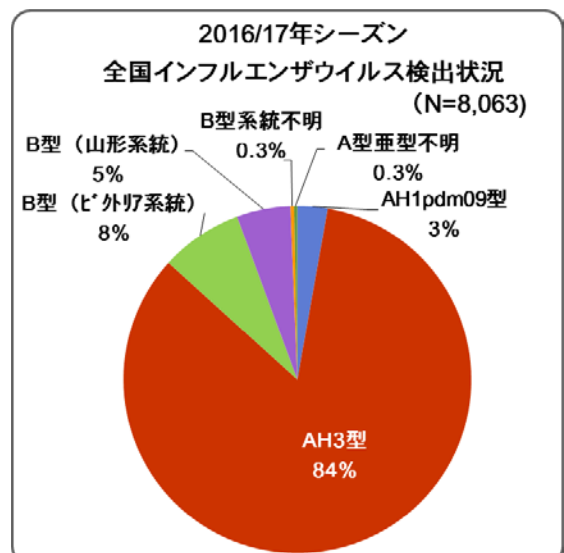
第20週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、8株（詳細は下表参照）でした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは106株で、その内訳は、AH3型84株（79%）、B型18株〔ビクトリア系統15株・山形系統3株〕（17%）、AH1pdm09型3株（3%）、A型（亜型不明）1株（1%）となっています。

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2017年第20週(5/15~5/21)	2017/5/15	備前	小学生	女	
インフルエンザウイルスB型	2017年第18週(5/1~5/7)	2017/5/1	岡山市	幼児	女	ビクトリア系統
インフルエンザウイルスB型	2017年第18週(5/1~5/7)	2017/5/1	倉敷市	幼児	男	ビクトリア系統
インフルエンザウイルスB型	2017年第17週(4/24~4/30)	2017/4/27	岡山市	幼児	女	ビクトリア系統
インフルエンザウイルスB型	2017年第16週(4/17~4/23)	2017/4/21	岡山市	30代	男	ビクトリア系統
インフルエンザウイルスAH3型	2017年第16週(4/17~4/23)	2017/4/17	岡山市	小学生	男	
インフルエンザウイルスAH3型	2017年第15週(4/10~4/16)	2017/4/11	岡山市	80代	女	
インフルエンザウイルスAH3型	2017年第14週(4/3~4/9)	2017/4/5	岡山市	20代	女	



今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型84%、B型13%〔ビクトリア系統8%・山形系統5%〕、AH1pdm09型3%の順となっています。

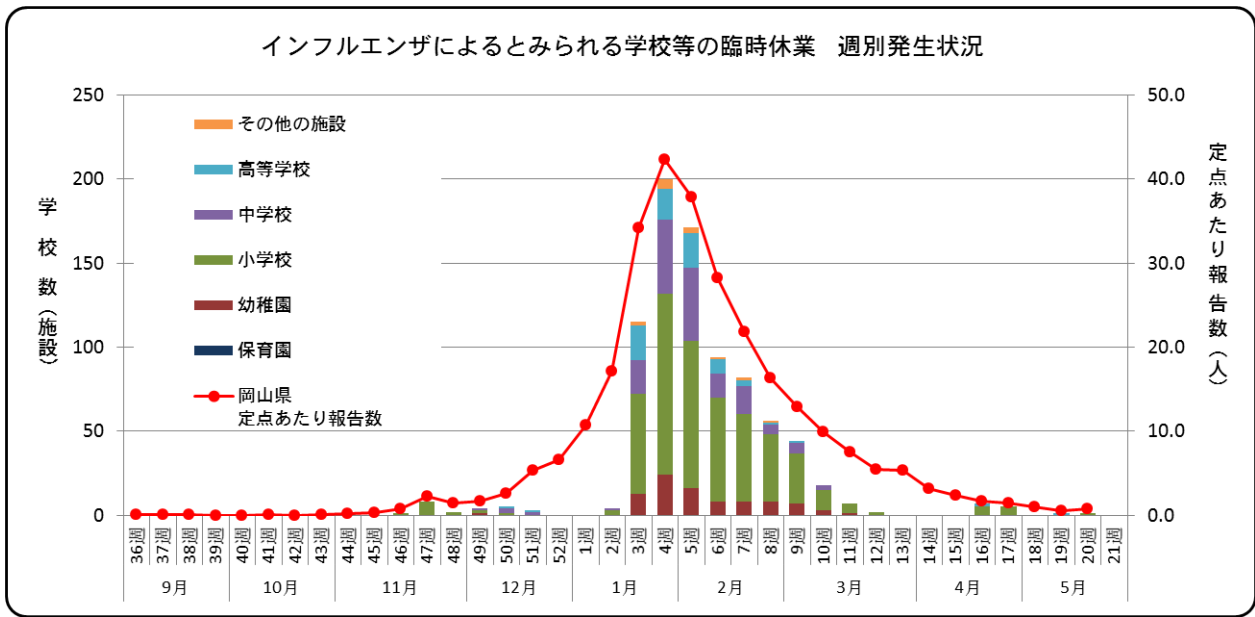
(2017年5月19日現在)



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました。

【第20週 臨時休業施設数】 ▽玉野市（小学校） 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	17	12510	17	9493	1	831	0	13	0	203	1	615	H28.11.2
岡山市	0	4609	0	3413	0	284	0	4	0	31	0	249	H28.12.12
倉敷市	0	3177	0	2472	0	203	—	—	0	22	0	181	H28.11.29
備前地域	17	1572	17	1252	1	113	0	1	0	41	1	71	H28.12.12
備中地域	0	1514	0	1146	0	103	0	1	0	43	0	59	H28.11.2
備北地域	0	587	0	403	0	43	0	4	0	21	0	18	H28.11.21
真庭地域	0	150	0	120	0	18	—	—	0	12	0	6	H29.1.16
美作地域	0	901	0	687	0	67	0	3	0	33	0	31	H28.11.16

2) 臨時休業施設数の内訳

第20週：1施設

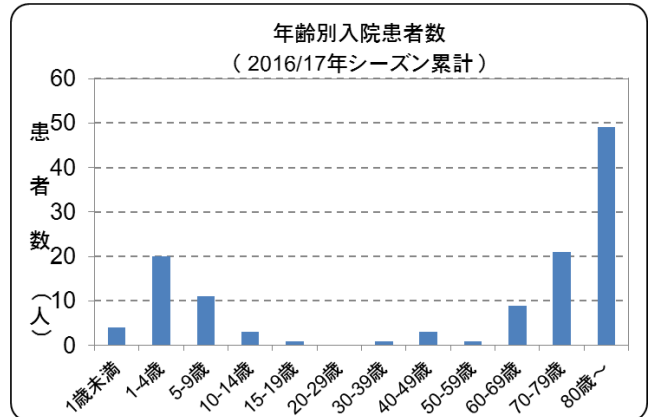
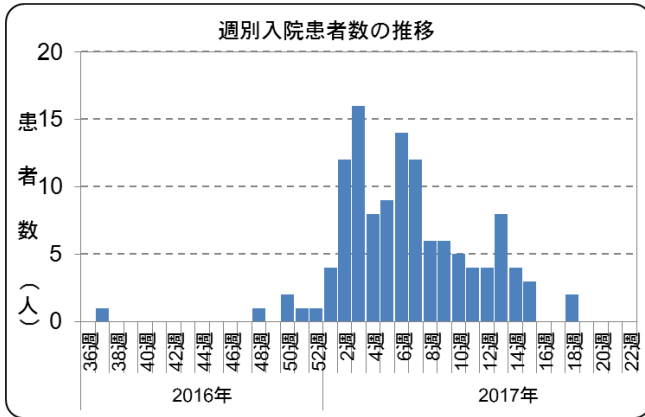
累計：831施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	89	1	487	0	160	0	80	0	15

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【2016年9月5日以降に入院した患者の累計数】

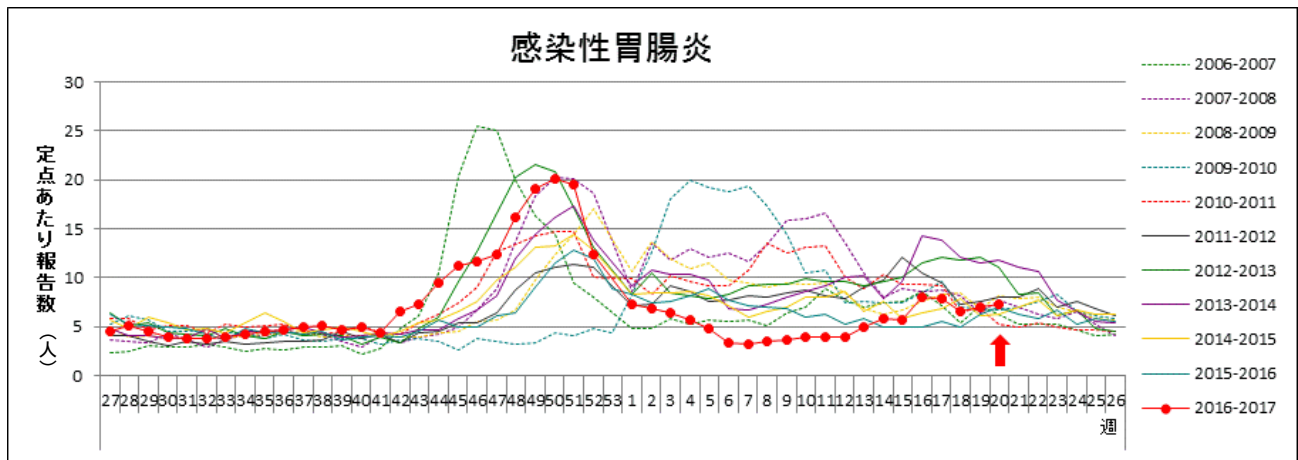
年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	4	20	11	3	1		1	3	1	9	21	49	123
ICU入室 *			2								1	1	4
人工呼吸器の利用 *													
頭部CT検査(予定含) *		1	3					1		2	4	15	26
頭部MRI検査(予定含) *		3	3								1	2	9
脳波検査(予定含) *		1	2										3
いずれにも該当せず	4	16	8	3	1		1	2	1	7	17	34	94

* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2017年 第20週 (5月15日～5月21日)

➤ 岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で394名(定点あたり7.30人)の報告がありました(54定点医療機関報告)。

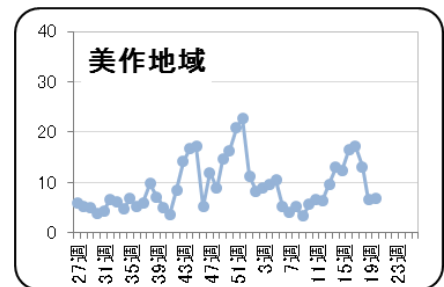
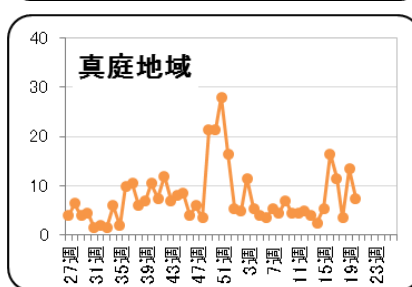
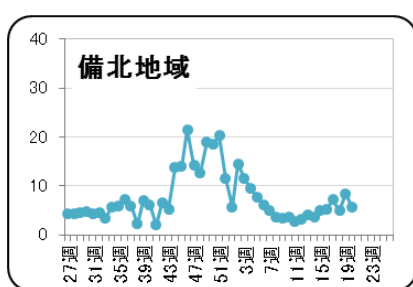
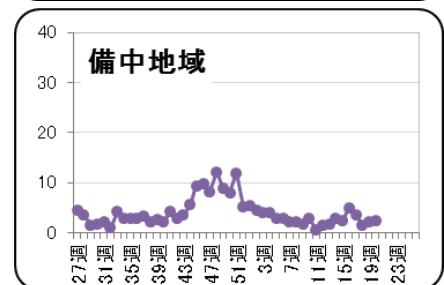
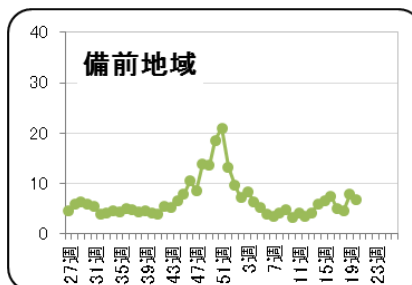
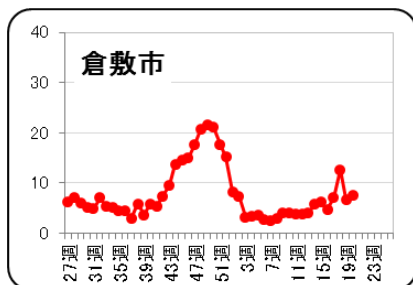
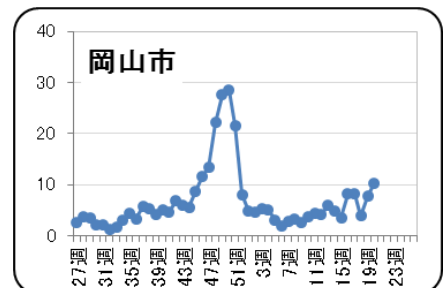
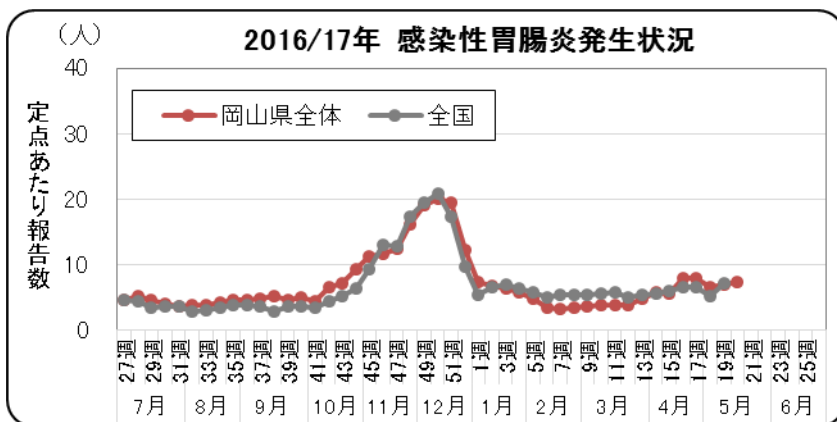


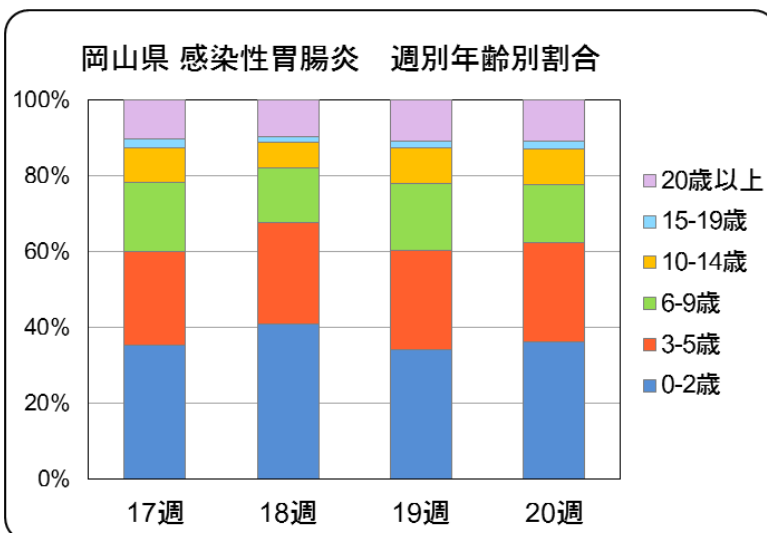
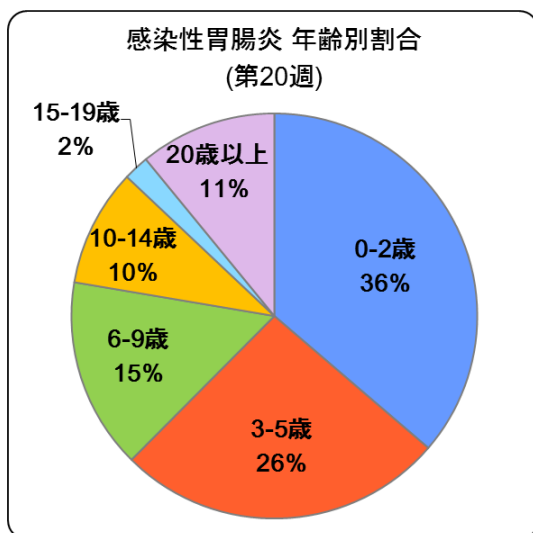
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で394名(定点あたり6.98→7.30人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、岡山市(10.36人)、倉敷市(7.64人)、真庭地域(7.50人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。

冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いとされています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況





第20周年齢別割合では、0-2歳 36%、3-5歳 26%、6-9歳 15%の順となっており、5歳以下の乳幼児が全体の62%を占めています。

例年3~5月には、2歳以下の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状はおう吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。おう吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[ロタウイルスに関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

予 防 方 法

1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上の熱水洗濯か**次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。(中心部を85~90℃で90秒間以上)

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。

[ノロウイルスに関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

[ノロウイルス感染症とその対応・予防 \(家庭等一般の方々へ\) \(国立感染症研究所\)](#)

保健所別報告患者数 2017年 20週(定点把握)

(2017/05/15~2017/05/21)

2017年5月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	63	0.75	8	0.36	5	0.31	43	2.87	2	0.17	3	0.50	1	0.33	1	0.10
RSウイルス感染症	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
咽頭結膜熱	21	0.39	8	0.57	1	0.09	3	0.30	1	0.14	1	0.25	-	-	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	74	1.37	32	2.29	11	1.00	4	0.40	4	0.57	3	0.75	2	1.00	18	3.00
感染性胃腸炎	394	7.30	145	10.36	84	7.64	69	6.90	17	2.43	23	5.75	15	7.50	41	6.83
水痘	8	0.15	4	0.29	2	0.18	-	-	-	-	-	-	1	0.50	1	0.17
手足口病	37	0.69	21	1.50	4	0.36	8	0.80	2	0.29	1	0.25	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	40	0.74	24	1.71	4	0.36	3	0.30	5	0.71	2	0.50	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	13	0.24	2	0.14	4	0.36	3	0.30	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	26	0.48	14	1.00	9	0.82	2	0.20	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	17	1.42	7	1.40	10	2.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2017年 20週(発生レベル設定疾患)

(2017/05/15～2017/05/21)

2017年5月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	63	0.75	8	0.36	5	0.31	43	2.87	2	0.17	3	0.50	1	0.33	1	0.10
咽頭結膜熱	21	0.39	8	0.57	1	0.09	3	0.30	1	0.14	1	0.25	-	-	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	74	1.37	32	2.29	11	1.00	4	0.40	4	0.57	3	0.75	2	1.00	18	3.00
感染性胃腸炎	394	7.30	145	10.36	84	7.64	69	6.90	17	2.43	23	5.75	15	7.50	41	6.83
水痘	8	0.15	4	0.29	2	0.18	-	-	-	-	-	-	1	0.50	1	0.17
手足口病	37	0.69	21	1.50	4	0.36	8	0.80	2	0.29	1	0.25	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	13	0.24	2	0.14	4	0.36	3	0.30	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	26	0.48	14	1.00	9	0.82	2	0.20	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	17	1.42	7	1.40	10	2.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2017年 第20週 2017/05/15～2017/05/21)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	63	-	-	6	1	8	1	4	5	4	3	1	7	4	5	8	3	1	-	2	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	21	-	2	6	3	3	4	-	-	2	-	-	-	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	74	-	1	6	3	4	13	11	8	7	5	4	8	-	4
感染性胃腸炎	394	8	30	58	47	37	27	39	20	16	15	9	37	8	43
水痘	8	2	-	1	-	1	1	1	-	1	-	1	-	-	-
手足口病	37	-	5	22	6	-	-	2	1	-	-	1	-	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	40	1	12	23	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	13	-	1	8	2	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
流行性耳下腺炎	26	-	-	1	-	3	3	4	5	3	3	2	2	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	17	1	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	3	-	2	3	1	1	1	2

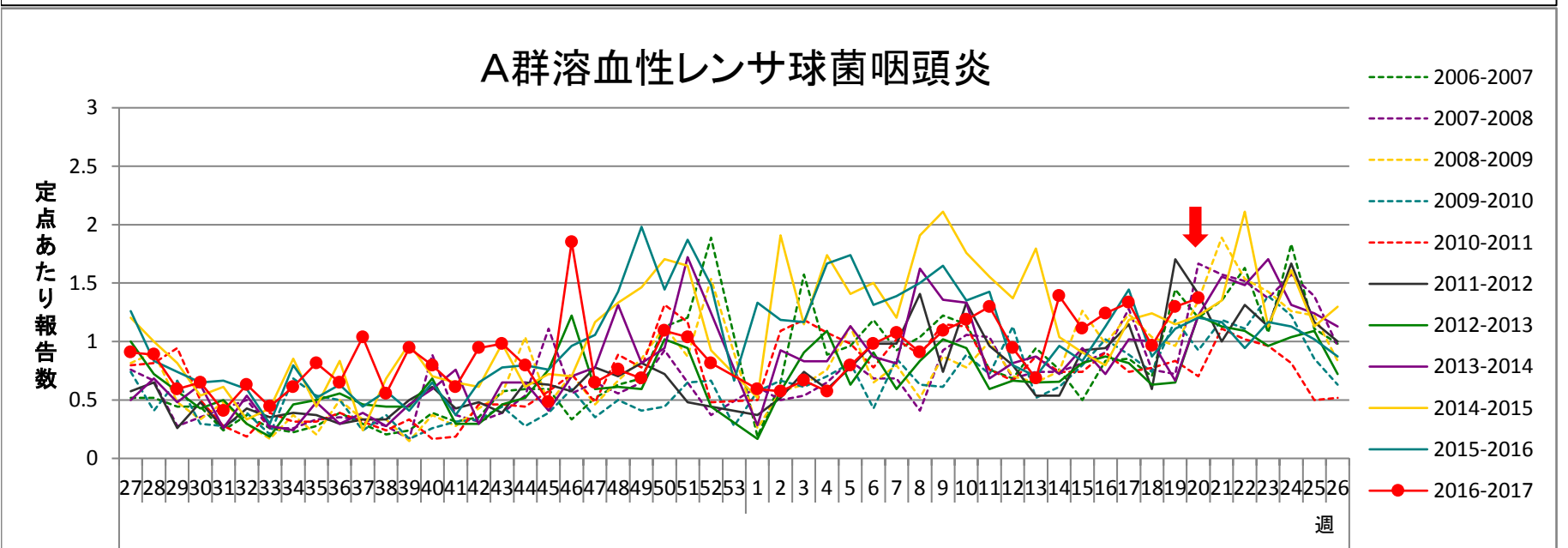
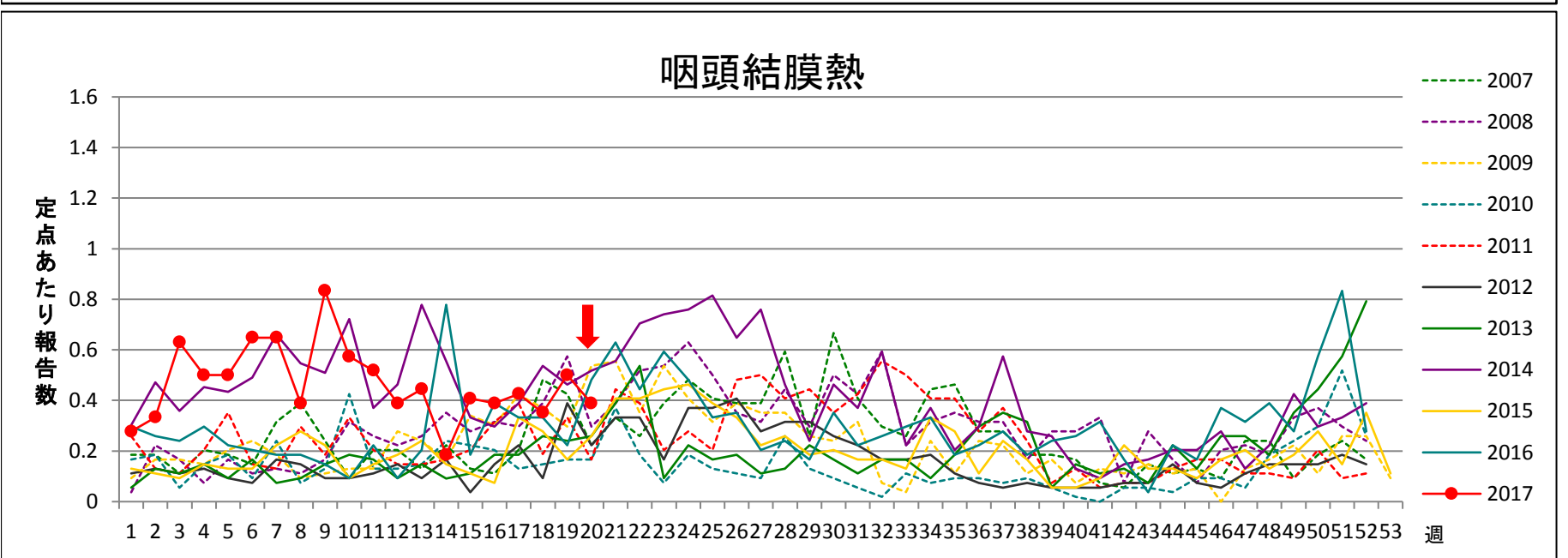
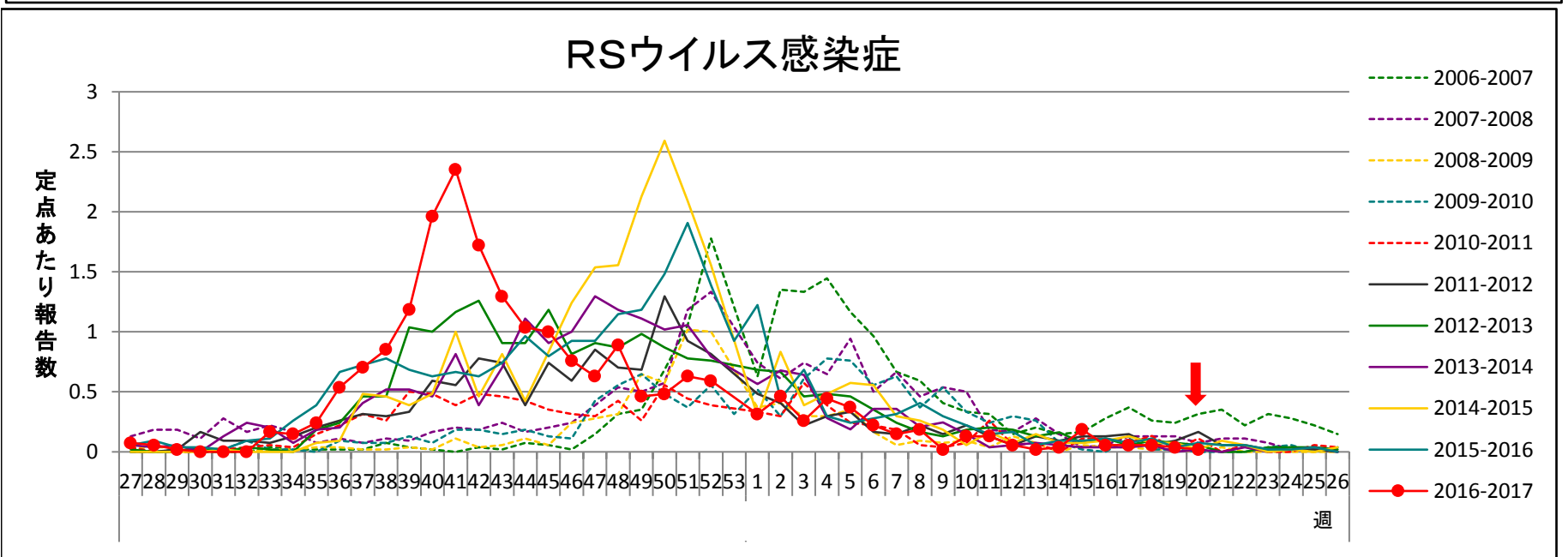
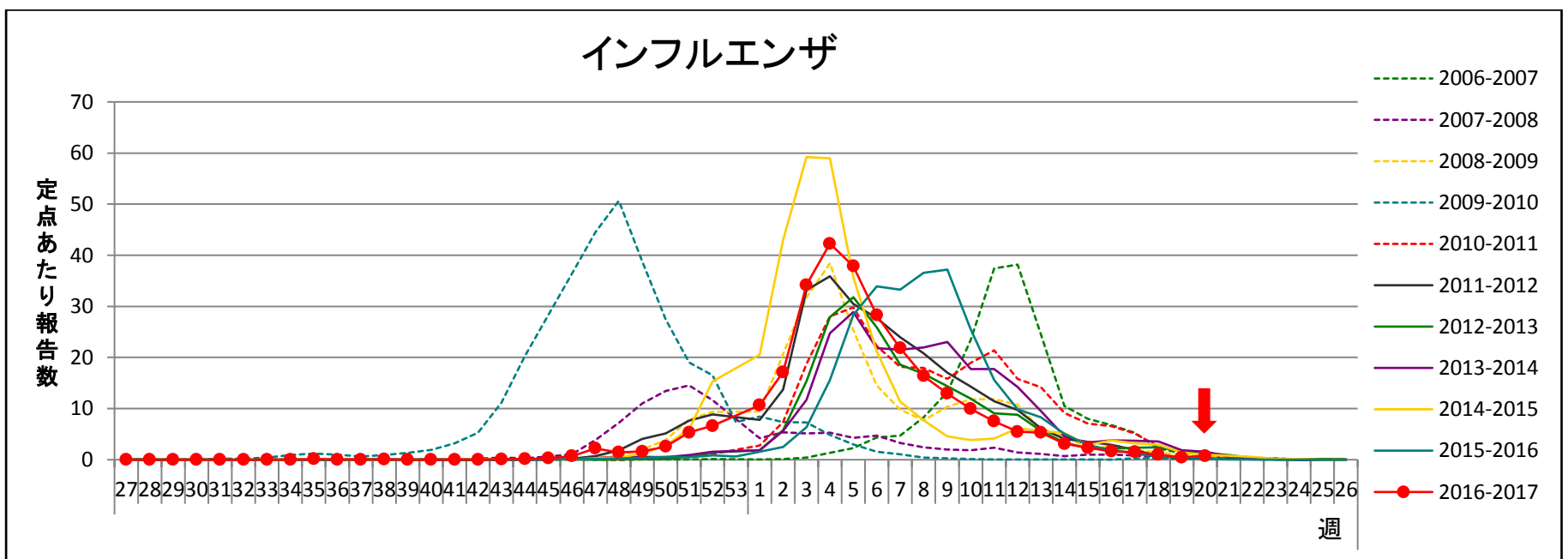
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

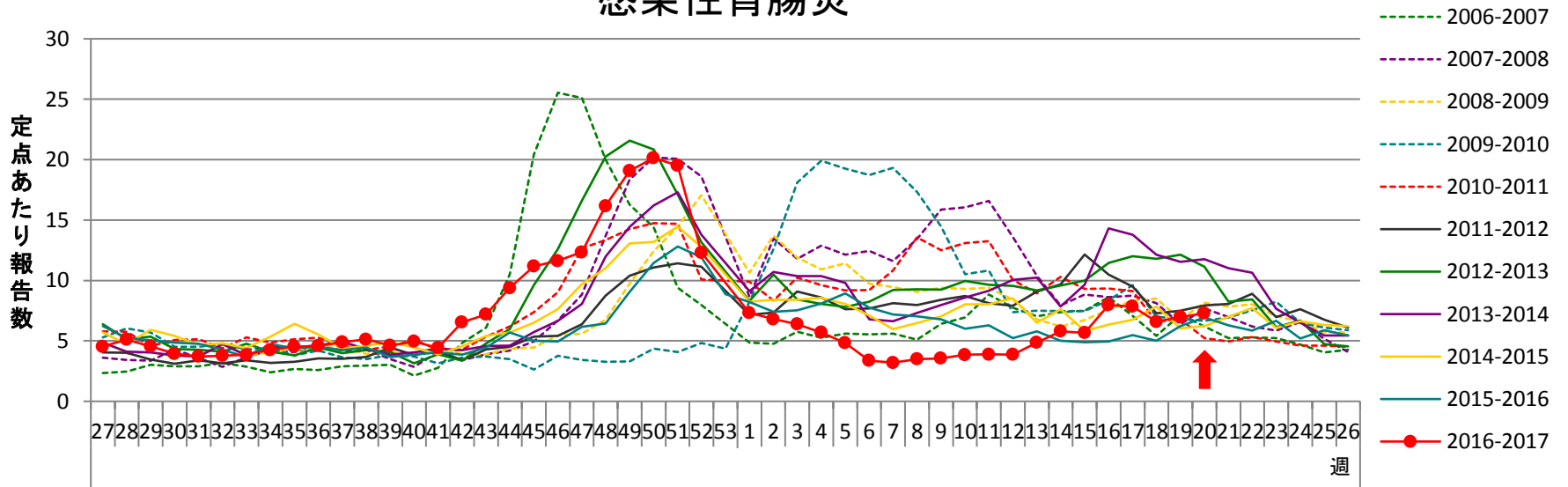
全数把握 感染症患者発生状況

2017年 20週

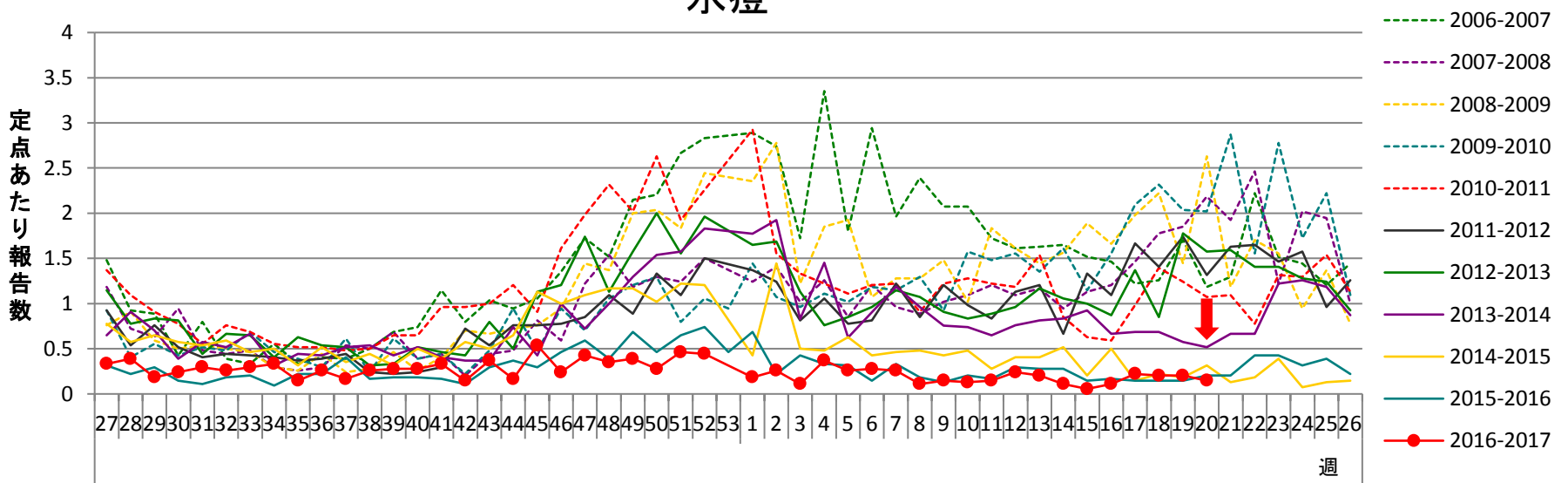
分類	疾病名	2017			疾病名	2016			疾病名	2017			2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年			
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	132	311	ジフテリア	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	3	65	-	-	-
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	3	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	1	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	-	-	-
	デング熱	-	-	1	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	1	日本紅斑熱	-	-	4	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	-	-	-
	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	4	26	-	-	-
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	10	18	ウイルス性肝炎*3	-	3	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	4	28	-	-	-
	急性脳炎*4	-	3	11	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	3	-	-	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	2	8	後天性免疫不全症候群	-	7	12	ジアルジア症	-	-	1	-	-	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	17	32	-	-	-
	水痘(入院例に限る。)	-	1	3	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	5	35	40	-	-	-
	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	-	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	3	1	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-	-	-	-
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-



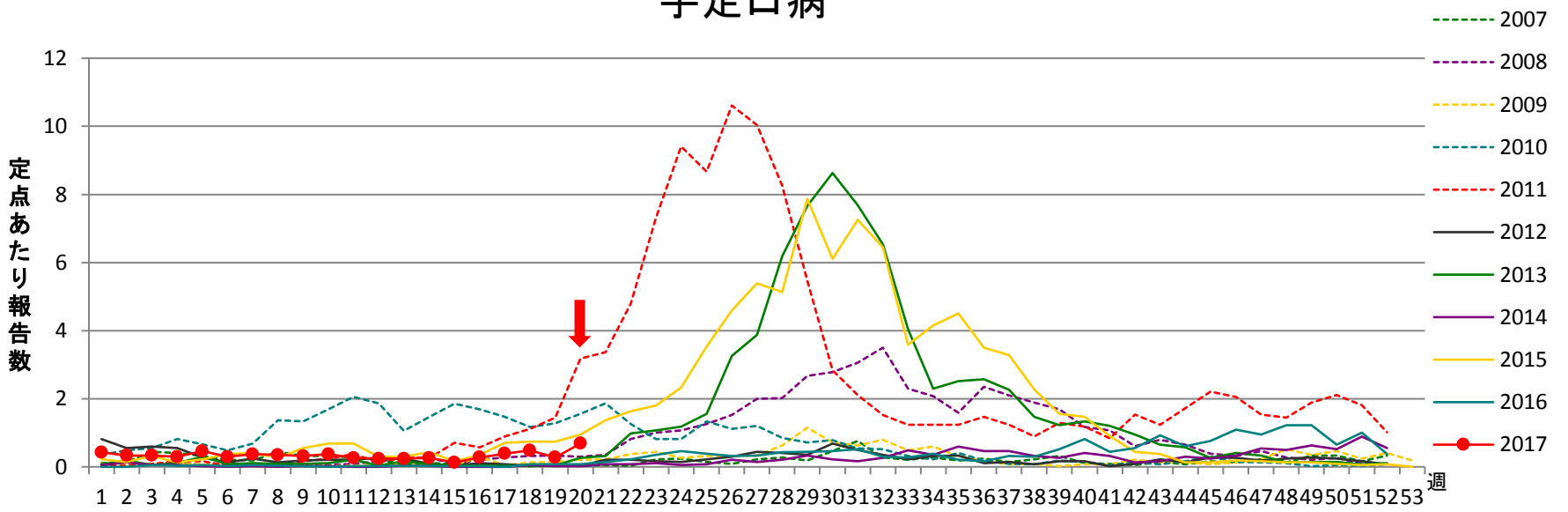
感染性胃腸炎



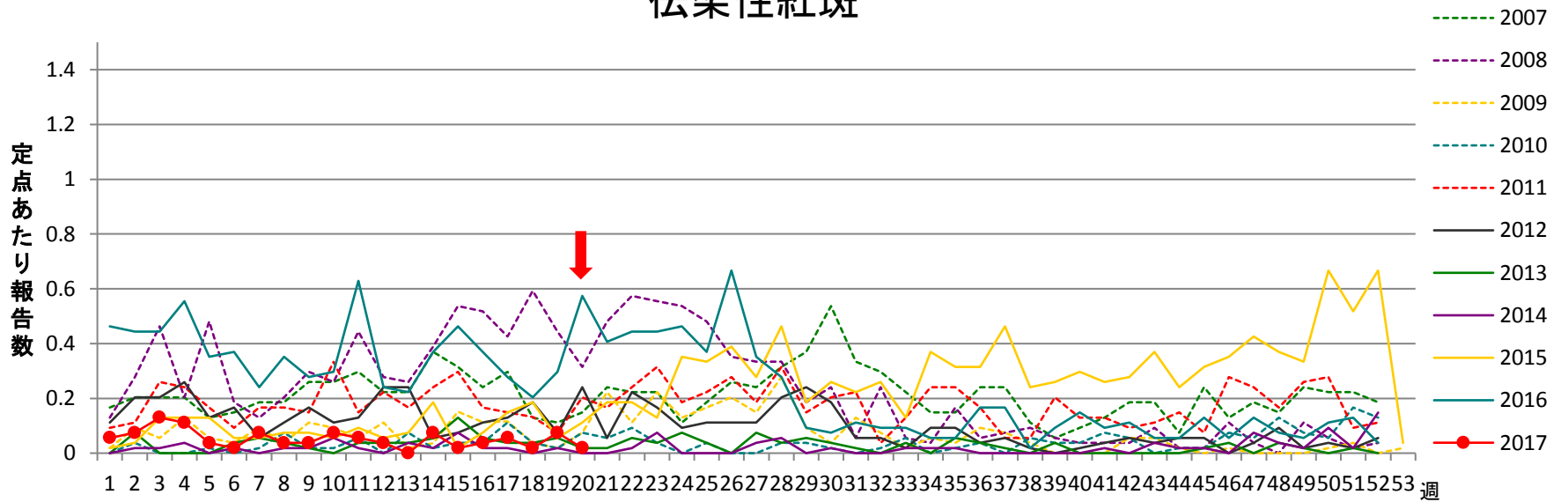
水痘



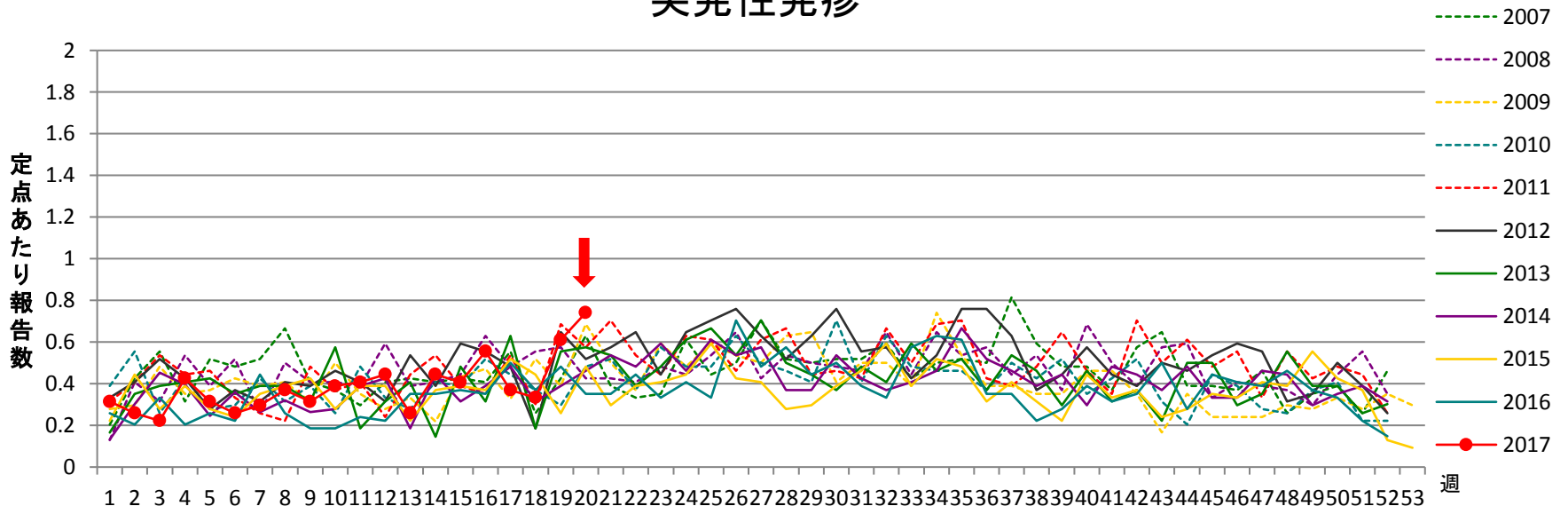
手足口病



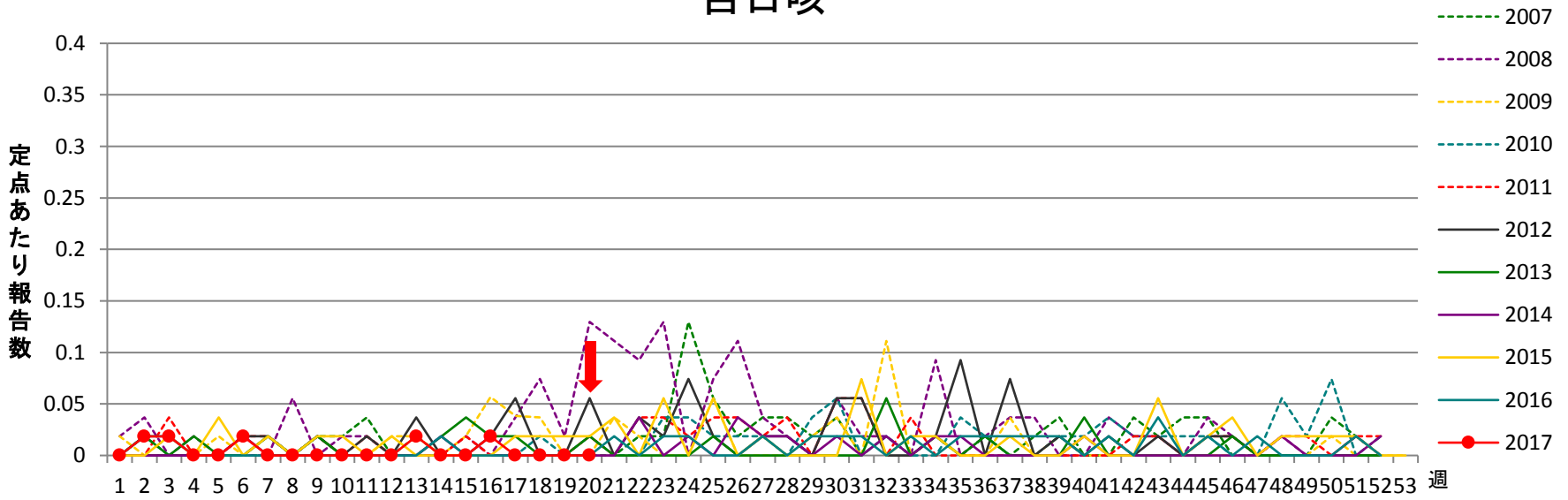
伝染性紅斑



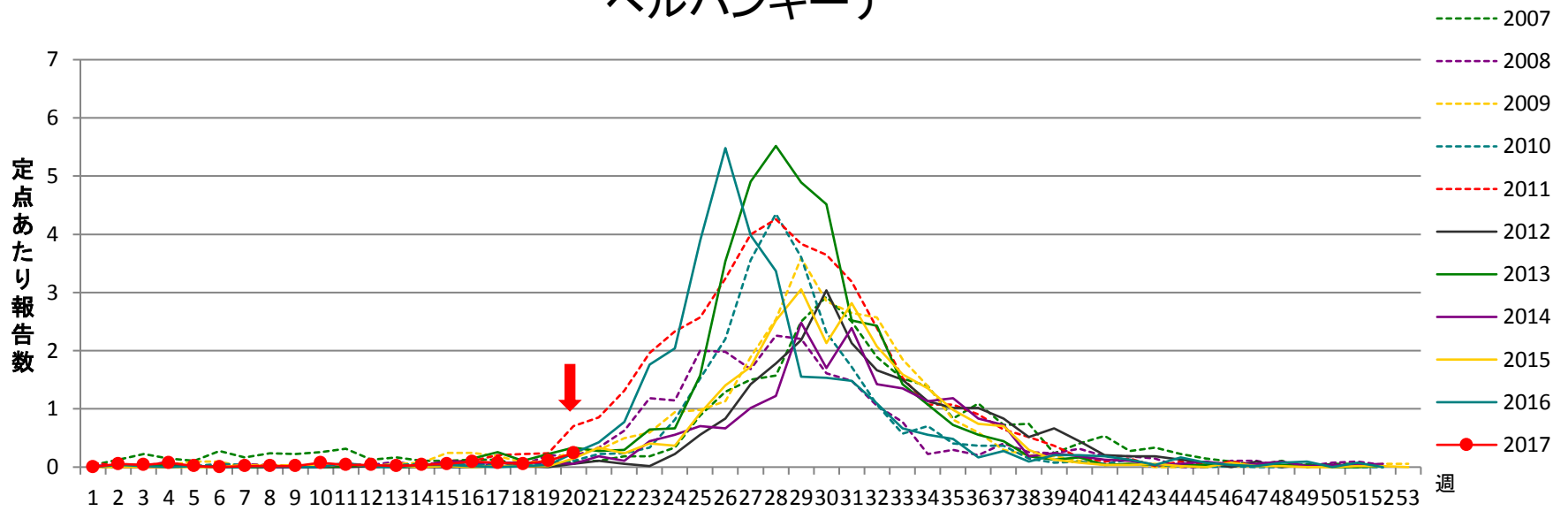
突発性発疹



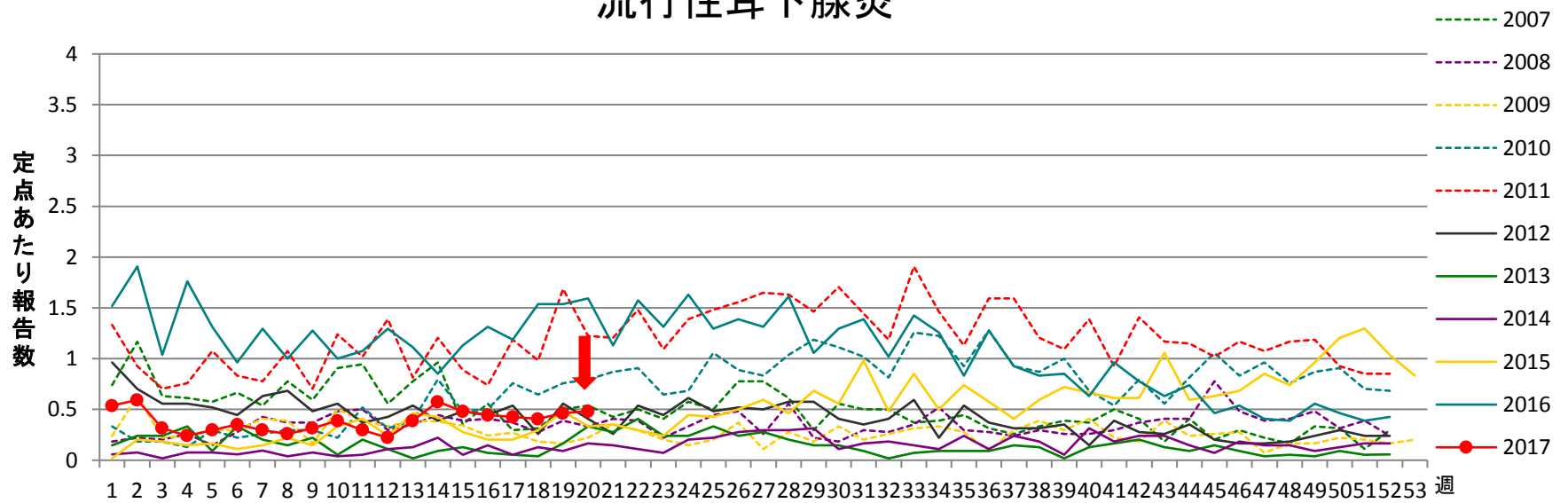
百日咳



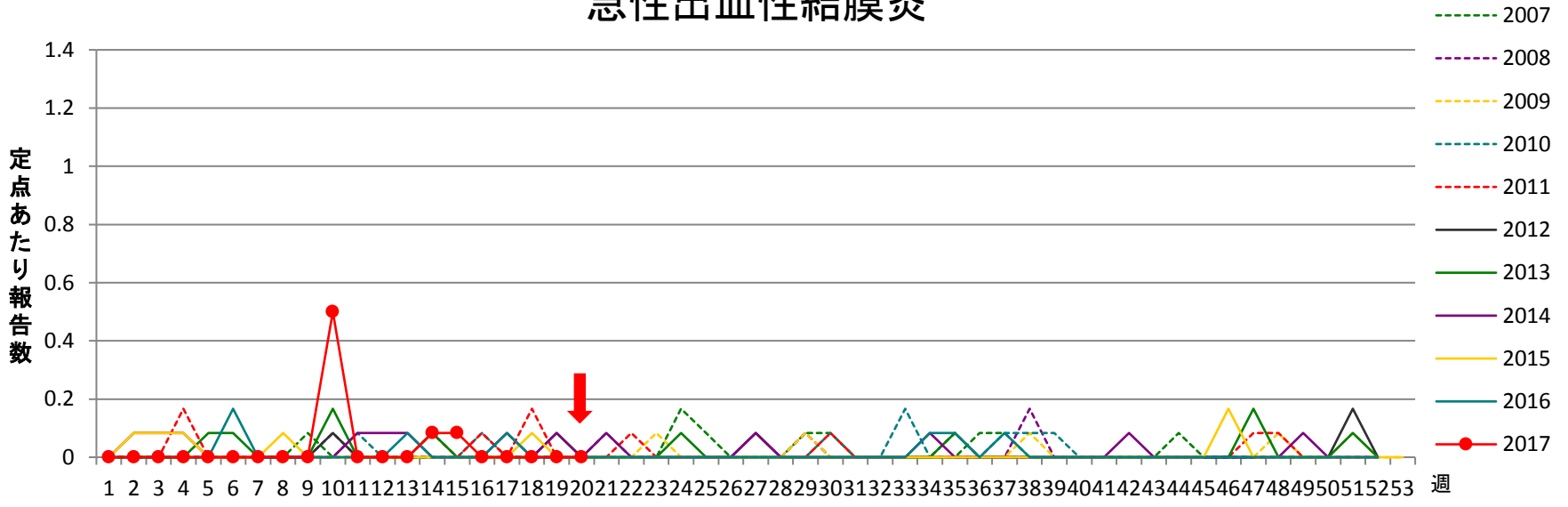
ヘルパンギーナ



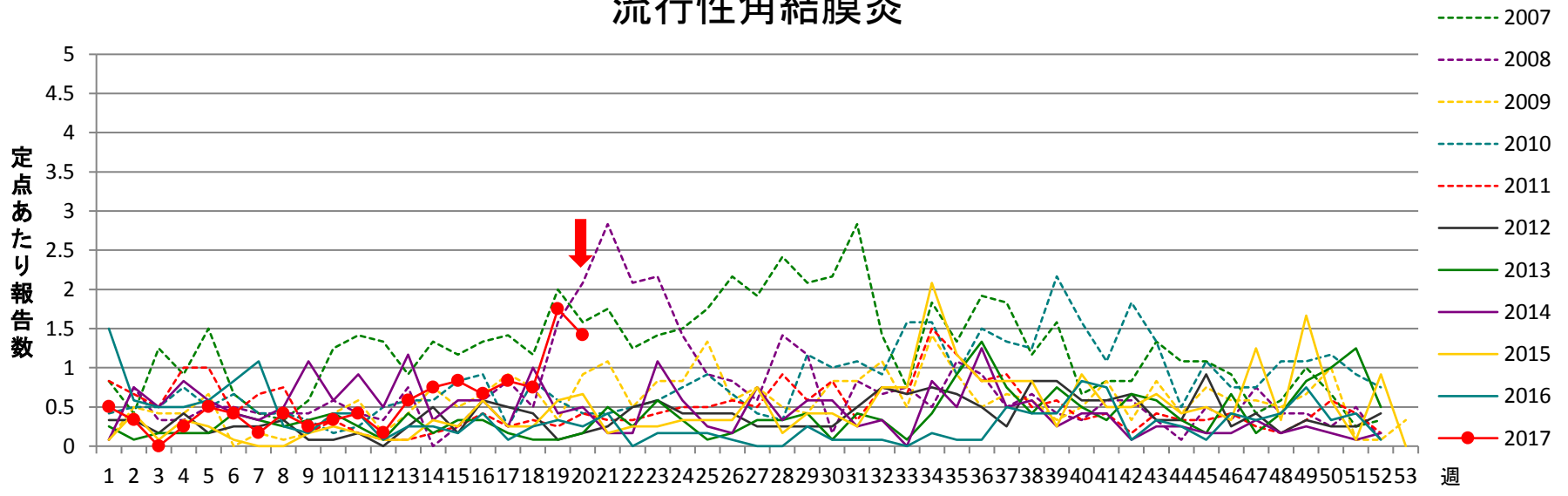
流行性耳下腺炎



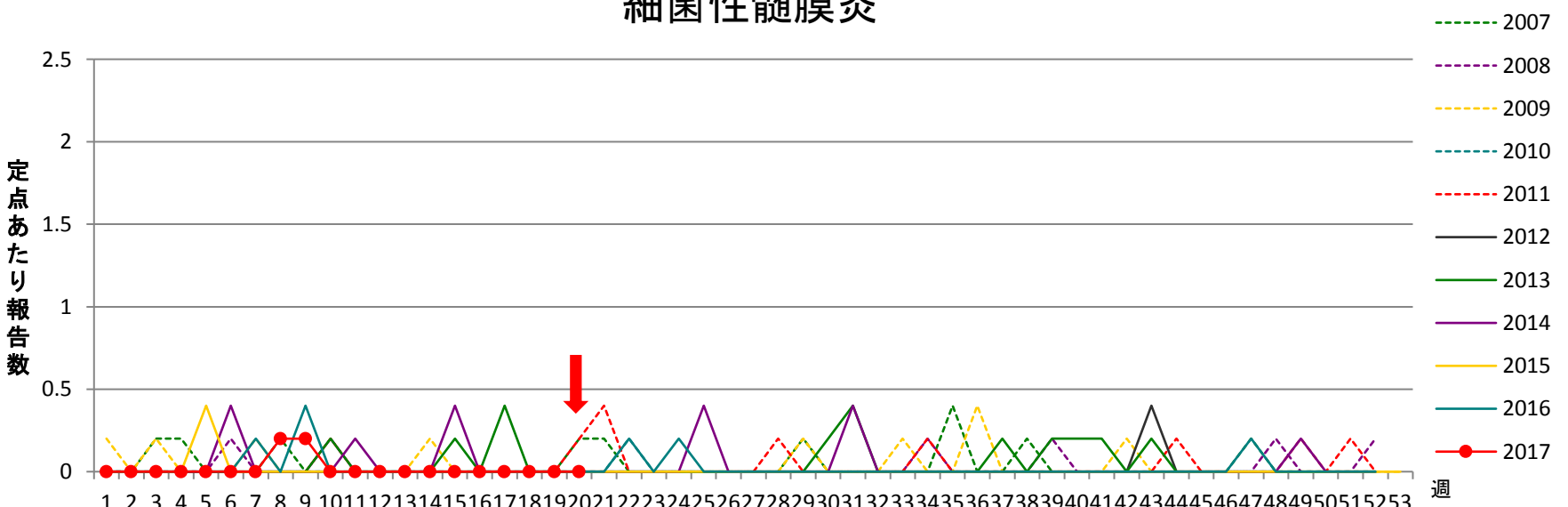
急性出血性結膜炎



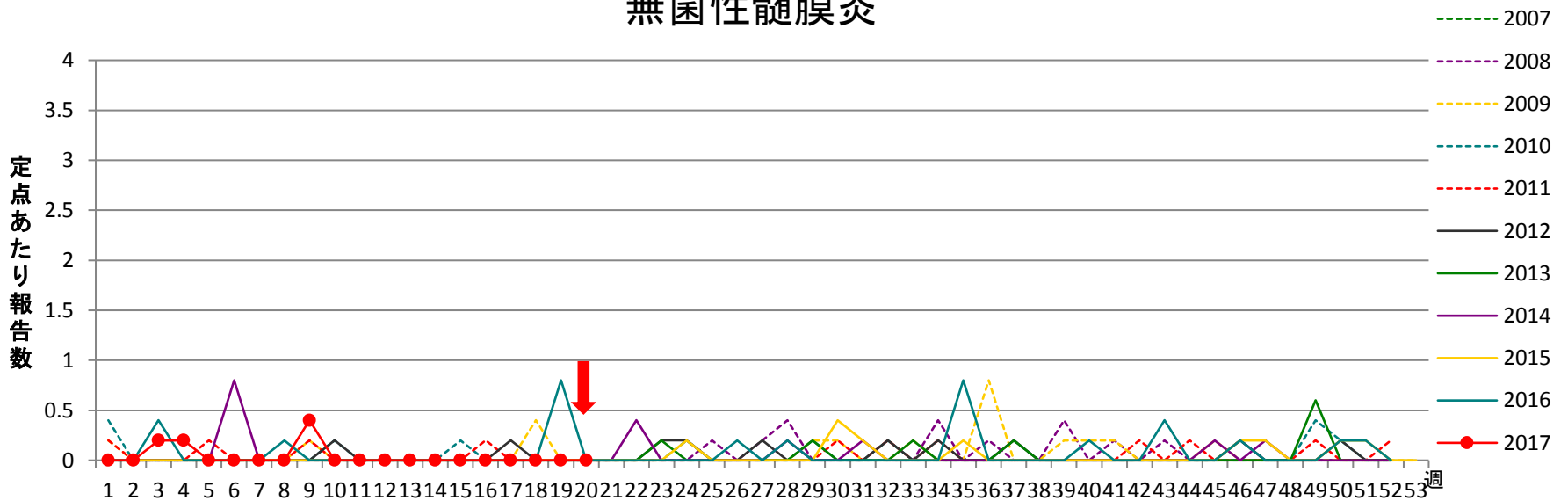
流行性角結膜炎



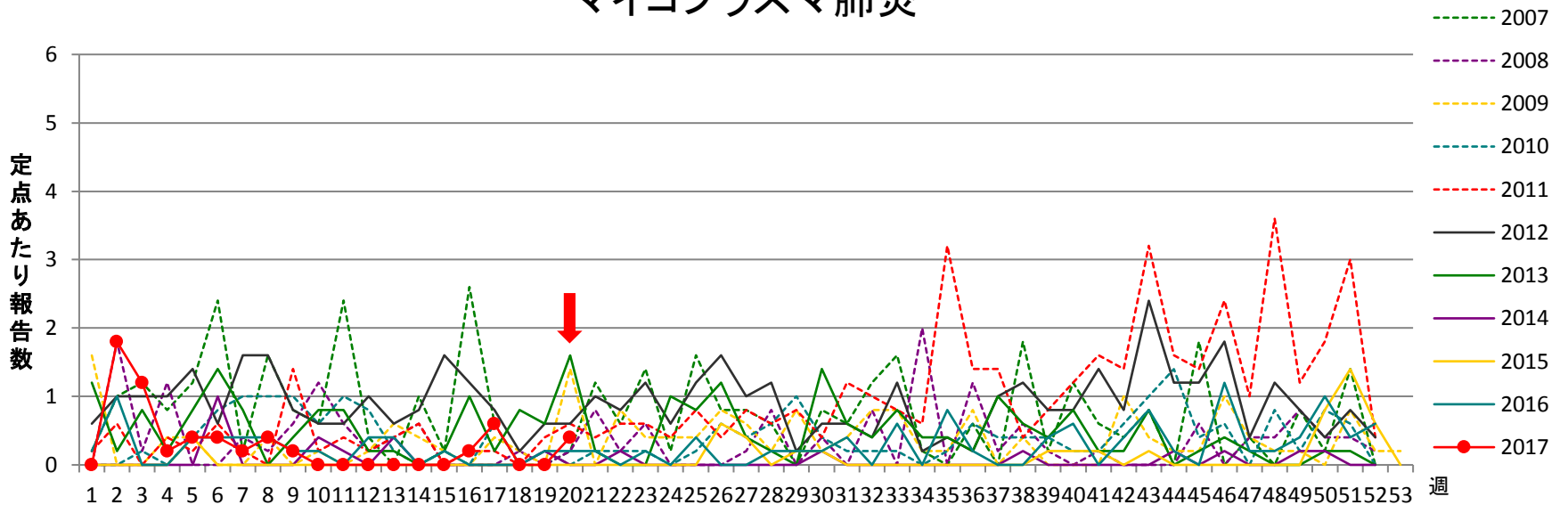
細菌性髄膜炎



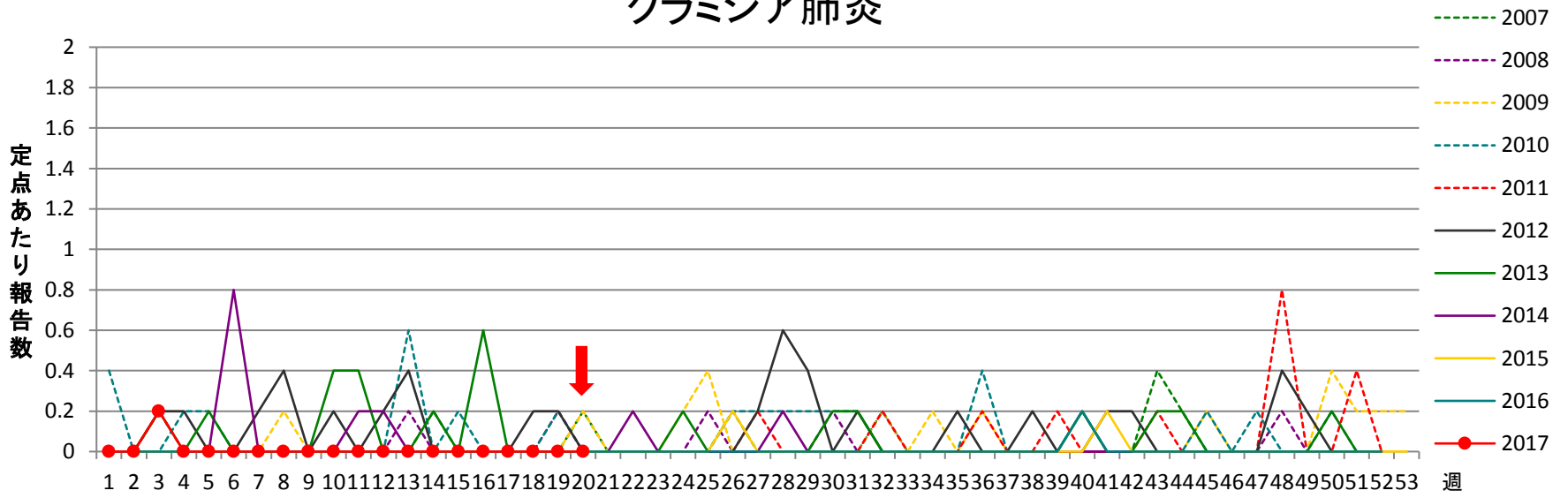
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

